

鎌倉市教育委員会 令和4年5月定例会会議録

○日時 令和4年(2022年)5月18日(水)
午前9時30分開会 午前11時16分閉会

○場所 鎌倉市役所第三分庁舎 講堂

○出席委員 岩岡教育長、下平委員、朝比奈委員、長尾委員、林委員

○傍聴者 7人

○本日審議を行った案件

日程1 報告事項

- (1) 教育長報告
- (2) 部長報告
- (3) 課長等報告

ア 令和4年度鎌倉市一般会計補正予算(教育委員会所管部分)に係る報告について

イ 令和4年度(2022年度)市立小・中学校学級編制について

ウ 鎌倉市立小中学校における臨時休業に係る専決処分の報告について

エ 令和3年度(2021年度)鎌倉市教育センター調査研究研修報告について

オ 令和3年度(2021年度)鎌倉市教育センター相談室利用状況について

カ 行事予定

(令和4年(2022年)5月18日～令和4年(2022年)6月30日)

日程2 議案第6号

鎌倉市文化財専門委員会委員の委嘱について

日程3 議案第7号

鎌倉市生涯学習センター指定管理者の指定について

日程4 協議事項

令和4年度鎌倉市一般会計補正予算(教育委員会所管部分)について

岩岡教育長

それでは定足数に達したので委員会は成立した。これより5月定例会を開会する。本日の会議録署名委員を下平委員に依頼する。本日の議事日程は手元に配付したとおりである。なお日程4、協議事項「令和4年度鎌倉市一般会計補正予算(教育委員会所管部分)について」は、議会の議決を経るべきものた

め、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 14 条第 7 項の規定により非公開にしたいと思うが、異議はないか。

(異議なし)

岩岡教育長

異議なしと認め、日程 4 については非公開とし、公開案件が終了した後に協議等を行うこととする。では日程に従い議事を進める。

なお、配付した議案集その 3 については、定例会終了後に事務局が回収する。

1 報告事項

(1) 教育長報告

岩岡教育長

先日、山口市で開催された第 72 回全国都市教育長協議会定例総会に出席してきた。2 年ぶりの開催ということで、政令指定都市を含む多くの市の教育長が 500 名程度山口市に集まり、さまざまなトピックについて意見交換をした。やはり話題となったのは、持続可能な教育行財政についてである。鎌倉市の子ども人口においては社会移動もあり微減という状況であるが、自治体によってはこの 15 年 20 年で子どもの数が半分になった、減少したという自治体も多くある中で、どのように持続可能な教育行財政というものを作っていくのかがひとつの大きな話題であったと思う。他には最近の政策動向ということで教員免許更新制が廃止されること、教員不足との関係についてどのような対応を行っているのかということについての情報交換や、部活動の土日の地域移行についてどのような考え方で行おうとしているのかといった意見交換があった。自治体によっておかれている人口動態も違い、目指しているまちづくりの方向性もまったく違うので、政策一つ取っても本当に打ち手の在り方が全然違うのだと改めて実感をした。鎌倉市としても各市の取組等様々仕入れたので、それを生かしながら本市に合った行政の在り方、教育政策の在り方というものを考えていければよいかと思うきっかけとなった。また新たなネットワークもできたので、さまざまな情報を仕入れていきたいと思っている。

次に学校訪問について報告する。今年の全校訪問は一つ大きなテーマとして、私だけの学校訪問にしたくない気持ちが非常に強く、各学級の様子であったり、学校の抱えている課題であったりを教育委員の皆様ももちろん、部長、課長だけでなく、主事級、係長、事務職員などの教育委員会事務局の職員も含めて、学校の様子を見て把握していくことが本当に大事だと思う。若手の事務職員に聞くと、まだ学級の様子を見に行ったことがないという職員もいるようであったので、たくさんの行政職員と一緒に学校現場を見て課題について一緒に考えることをモットーにやっている。大人数で学校に押し掛けると学校現場も驚くかもしれないが、それが必ずいい施策作りに生きていくと思うので、今回の学校訪問は様々な職員と一緒に帯同して行っている。学校の様子を見ると、GIGA スクールが始まってから丸 1 年が経過しどのような様子か見ているのであるが、やはり導入当初はどちらかというと学校の校務に使うケースが多かったり、これまでとは授業スタイルを変えず、一斉授業の中で電子黒板を使うことで教材提示が魅力

的になっているステージの学校も多かったと思う。しかし現在の学校を見て回っていると、子どもたち自身が ICT を使って自分なりのやり方を選択している様子が数多く見られている。情報をまとめる活動で使われていたり、ただ使うだけであれば置換であるが、例えば Google のサービスを使いながら、複数のグループで共同して発表資料の作成をしていた。一点驚いたのは、今回初めて見たのだが、ノートを取るといった活動の中で、もちろんプリントを配られた時は紙でやるのであるが、ただノートを書き写すという活動がなかなか合わないと思う子どもが、Google ドキュメントを使ってノートをとっている様子が小学校でも中学校でも見られている。子どもたち自身が自分に合った学び方を選択している状況なのかと思い、これも非常によい活用方法の一つであると改めて感じた。またコミュニティスクール化ということで、今年度第二中学校区と手広中学校区でコミュニティスクールを先行して実施していくという方針である。今年度コミュニティスクールを実施しない学校においても、コミュニティスクール化を見据えて地域や保護者とのつながりを強化していこうという流れも見えてきている。例えば地域の PTA の皆様にコミュニティ委員会というものを立ち上げてもらい、中学校の開放日を増やしていく取組も見られてきているところである。施策の方向性に沿った様々な取組が見られており、まだ始まったばかりであるが、職員の皆様と一緒に学校現場を見ていければと思っている。

下平委員

鎌倉市のホームページにも掲載されているが、深沢学習センターで6月16日に鎌倉市と鎌倉のケアマネ連絡会との合同企画で介護支援専門委員の皆様方を対象とした対人の援助に対する研修会が行われる。もし知り合いの方で、介護支援専門員の方がいたら、おすすめいただけたらありがたいと思っている。高齢化の鎌倉市の状態であるが、多くの高齢者の方々が安心して安全に過ごせる、そんな市を目指して一緒に考えたいと思っている。

(2) 部長報告

(特になし)

(3) 課長等報告

ア 令和4年度鎌倉市一般会計補正予算（教育委員会所管部分）に係る報告について

岩岡教育長

次に課長等報告に移る。報告事項のア「令和4年度鎌倉市一般会計補正予算（教育委員会所管部分）に係る報告について」報告を願いたい。

教育文化財部次長兼教育総務課長

「令和4年度鎌倉市一般会計補正予算（教育委員会所管部分）に係る専決処分について」報告する。議案集その2、1ページから4ページを参照願いたい。今回の補正は教育文化財部及び健康福祉部スポーツ課が所管する歳出事業費の補正になる。本来であれば教育委員会で協議の後市議会へ諮るべきものだ

が、時間的余裕がなかったため2ページにある補正予算の意見の聴取の申入れについて、鎌倉市教育委員会事務の教育長への委任等に関する規則第2条第2項の規定に基づき、4ページのとおり意見はない旨の専決処分をもってその事務を代理したことを同規則第5条の規定により報告するものである。補正予算の内容については議案集その2の3ページを参照願いたい。

「55款 教育費 10項 小学校費 5目 学校管理費」◎小学校運営事業は、169万8千円の減額で、小中学校の水泳事業の中止に伴うプール用の薬品等消耗費及びAED賃借料の減額を行った。

「55款 教育費 25項 保健体育費 5目 保健体育総務費」◎学校体育施設開放事業は、569万1千円の増額で、教育総務課で執行する予定の経費について、スポーツ課で学校プールの一般開放事業の経費として執行するため、プール一般開放用の薬品等消耗費、AED賃借料及びプール清掃業務委託料の増額を行った。

以上、教育委員の所管部分は399万3千円の増額補正を行ったものである。

(質問・意見)

特になし

(報告事項アは了承された)

イ 令和4年度(2022年度)市立小・中学校学級編制について

岩岡教育長

次に報告事項イ「令和4年度(2022年度)市立小・中学校学級編制について」報告を願いたい。

学務課担当課長

令和4年(2022年)5月1日現在の小・中学校児童生徒数及び学級数について報告する。議案集は2ページ、「小・中学校児童・生徒数及び学級数【標準学級数】」の表を参照願いたい。この表は、小学校1年生から3年生が1学級35人、小学校4年生から中学校3年生までが1学級40人を基準とした学級編制である標準学級数を記載しており、この学級数が教職員の定数を決定している。人数や学級数、昨年度からの増減については、右下の総括表を参照願いたい。

次に実際に学級編成の状況について報告する。議案集3ページの「小・中学校児童・生徒数及び学級数【実学級数】」を参照願いたい。この表には実際の学級数を記載している。標準学級数と異なるのは黄色で着色されている部分である。例えば第一小学校の4年生は119人の在籍で、1クラス40人の標準学級数だと3クラスになる。それを実際には4クラスの少人数学級にして実施している。令和4年度(2022年度)は小学校の7学級において、学校判断により県の加配を使って少人数学級研究を実施する、または各学校の工夫として、標準学級数より1学級ずつ多い学級数となっている。概要については、右下の表を参照願いたい。

(質問・意見)

岩岡教育長

鎌倉市全体としては人口がやや増加しているが、年齢構成の変化があるので、児童数については微減という状況になっていると認識をしている。この中で人口の減少が非常に著しいのは植木小学校で、すごく小さくなっていると思う。児童数でいくと、稲村ヶ崎小学校より少ない状況になっている。学級数としては 11 学級ではあるが、児童数としては富士塚小学校に次いで 2 番目に小さくなっているかと思う。地域によって非常に人口動態の違いというものが見えてきている。

下平委員

加配に協力してもらいクラス数を増やしているということであるが、これを見ても、例えば七里ガ浜小学校の 5 年生が 39 名で 2 クラスという 1 クラス 20 名という感じかと思う。このあたりの加配の決め手というのは学校側への配慮や学校側の要望ということであったが、他にはどういうことを大事に加配をして人数を減らそうということをしているのか伺いたい。

学務課担当課長

少人数で行うことによって生活面、学習面で手厚く指導することができるので、そういったことで子どもや子どもの様子を見て学校で判断している。これについても県から加配をもらって少人数学級研究でやっている学校と、県からの加配がなく、学校独自の判断で学級の弾力化という形で少人数にして実施している学校がこの中に混在している。

岩岡教育長

少し補足すると、加配の理由がいくつかあり、少人数学級があれば専科の学習というものもあり、加配をどのような目的で活用するか自体は各学校のニーズに応じてになる。加配の専科で使いたいが、この学年はどうしても学級を割りたいというニーズがある場合には、県の加配ではなく、学校独自の取組として少人数学級を実施することがある。今、七里ガ浜小学校が例に挙げたが、必ずしも学級規模、学年の人数が多いから割る、少ないから割るということだけの判断基準ではないと思っている。例えば元気な子どもが多い学年は、元気だからこそできる教育活動ももちろんたくさんあるが、それを生かすためには人数を絞った方が学級運営が上手くいくケースもあったりするので、何人以上だったら割るという竹で割った値を取るというよりは、むしろ学年の所属する児童の性質等を把握しながら、各学年でどこを割ろうかというものを判断していく状況だと思っている。

(報告事項イは了承された)

ウ 鎌倉市立小中学校における臨時休業に係る専決処分の報告について

岩岡教育長

次に報告事項ウ「鎌倉市立小中学校における臨時休業に係る専決処分の報告について」報告を願いたい

学務課担当課長

報告事項ウ「鎌倉市立小中学校における臨時休業に係る専決処分」の報告について報告する。本件については、本来教育委員会の会議に提案すべき事項だが、急を要することから会議に提案する時間的余裕がないため、鎌倉市教育委員会事務の教育長への委任等に関する規則第2条第2項の規定に基づき、教育長による専決処分をもって、その事務を代理したことを報告するものである。

議案集4ページを参照願いたい。本件臨時休業については、2月及び3月定例会においても専決処分の報告を行った。その後、鎌倉市立小中学校における新型コロナウイルス感染症の感染状況は減少傾向にあったが、学級単位で複数名の陽性者が発生する事例が依然として見受けられる。このため、教育委員会では、学校長からの陽性報告を受け、協議を重ね、随時学校保健安全法第20条の規定に則り、臨時休業すべきと判断し、令和4年(2022年)4月18日から令和4年(2022年)4月26日までの間に3回、鎌倉市教育委員会教育長による専決処分を行ったところである。

次に専決処分の内容について報告する。臨時休業の実施状況は5ページの「臨時休業実施状況」のとおりとなる。子どもたちの人権に配慮する必要があるため、これまでと同様に学校名及び学年は公開をしない方針としている。なお、すべての学校において、休業に係る消毒については教職員が実施をしている。

(質問・意見)

岩岡教育長

一時期は教育文化財部次長が新型コロナウイルス感染症対応の仕事しかできないという状態もあり、1日に数十件の陽性報告があるというような日が続いていたが、昨今では片手で数えられる程度の感染者数で、非常に落ち着いてきているのかと思っている。感染症対策を緩められる時期に来ているかについては、まだ国のガイドラインも変わっていない状況であるので、そこは専門的知見による審議に委ねたいと思う。なんとか学校も子どもたちに様々な経験をさせてあげられる行事を安心してできる環境になってきていると思っており、今回小学校の修学旅行が5月24日から順次日光に行くが、滞りなく実施できる方向性で検討しているところである。

(報告事項ウは了承された)

エ 令和3年度(2021年度)鎌倉市教育センター調査研究研修報告について

岩岡教育長

次に報告事項エ「令和3年度(2021年度)鎌倉市教育センター調査研究研修報告について」報告を願いたい。

教育センター所長

報告事項エ「令和3年度（2021年度）鎌倉市教育センター調査研究研修事業について」報告をする。議案集7ページ、8ページは令和3年度（2021年度）の研究事業で開催した研究発表会、幼児教育関連事業、4つの調査研究会をまとめたものである。

議案集9ページから11ページは、鎌倉市教育センター企画研修会と学校支援研修会の研修内容と参加者数をまとめたものである。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、オンラインによる研修に切り替わった研修もあったが、各学校で実施することができた。

議案集12ページの各小中学校でのGIGAスクール校内研修の内容と参加者数である。児童生徒一人1台タブレット端末を持つ中で、今後も教職員の研修を重ねていきたいと思っている。

議案集13ページは、教育センターが実施した初任者研修と1年・2年経験者研修の内容、参加者数と教育指導員の派遣回数になっている。継続的に初任者やスキルアップを目指す教職員にも指導助言のため、基本研修の内容の充実と、教育指導員の派遣に努めた。

議案集14ページは教育情報事業。15ページは他機関との連携等についてまとめたものである。

（質問・意見）

林委員

私自身も色々な研修に参加し勉強をしており、先生方の様子を見つつ、自分も色々な知識を蓄えているのだが、GIGAスクール校内研修会がだいぶ定着していて、色々なバージョンで先生方が研修を受けている場面を見るが、校務で使うもの、授業で使うものが混在した状況で研修を受けていると思う。研修の中で少し授業をやって使っている先生方を見て使用方法を学ぶだけの授業は、なかなか苦手な人にとっては「どうせできないから」という形になってしまうので、1時間分授業を見るだけではなく、実際に子どもが学んでいる姿を見ながら研修を行い、その後それを先生方が実践するような、実際に授業で使えて子どもの反応も見られるような研修を考えているか伺いたい。

教育センター所長

GIGAスクール校内研修は3年間計画で、令和2年度からスタートしている。今年度が3年目で一応終了する予定でいる。まずは先生方が使えるような研修という形でスタートして、各学校のニーズに合わせてGIGAスクール校内研修を設けている。教育センターの授業の中で調査研究会というものがあり、その中で情報教育研修会がある。この研究会で実際に実践をして各先生各学校に周知をし、見学を促すアナウンスをしており、今の段階ではこの研究会の実践をしていくところが子どもの実態を合わせて見ることができる段階である。

岩岡教育長

教育指導課ではICT推進担当者会を設けている。各学校にICTリーダーを指名してもらい、その先生方に集中的に情報提供するとともに、実践力を高めてもらい、校内に横展開を図っていく仕組みとなっている。これまではどちらかというと校務での活用であったり、端末のアカウント管理であったりといった情報交換が多かったが、今年度は授業づくりにテーマを絞ってやっていきたいというところを先日4月に開催したICT推進担当者会で伺い、実際研究授業などもやろうと手を挙げている先生もいる状況

なので、そういったものを活用しながら実際の授業の様子と授業で使える ICT のテクニックや知見がうまく組み合わさって学校の授業づくりにつながっていくように教育センターと教育指導課とで両面から取り組んでいきたいと考えている。

また、今年度から深沢中学校が教育課題指定研究校であるが、指定研究の中で ICT を使って深い学びというものをどうやって作っていくのかをテーマにして、外部講師も入れて作っていききたいということであるので、学区内の小学校はもちろん他校にもそういう知見を波及させていくような取組もしていきたいと思っている。

林委員

職員全員で練習して「できた」と思っても、教室に入って1人で子どもを目の前にして扱うというのは非常にドキドキしてできないものなのである。大学でも経験があるのだが、途中で止まってしまうことがあるので、先生方全員が個になった時にできる、そういう自信を先生につけさせてあげたいと思うので、よろしくお願いします。

岩岡教育長

4月に学級の入替えもあり、子どもたちが習熟して次のタイミングのところで上がってきた時に、子どもたちが先生に教えてくれる、子どもたちから教わるとこともたくさんあるのかと思うので、そこを今度子どもたちにうまく委ねることも重要な視点かと考えている。

下平委員

私は全国の企業でコミュニケーションの教育をしているのだが、2年前までは全国各地出張に飛び歩いていたのだが、この2年間コロナ禍でオンラインでの研修が増えてきた。前回の教育委員会でも言ったように、オンラインで受講する場合に、心の共振作用は実は起こっていないということが明確に発表された。つまりドーパミンとアドレナリンが出て活性化してくるとか、お互い触れ合ったことによって心が安定して落ち着いてくるとか、そういう作用はやはり起きにくいことがわかってきているようである。もちろん ICT の教育やオンラインの活用はこれでやるのがよいと思うのだが、やはりこれから企業でも課題になっているのは、受講者たちが家にいながらにして受講できて楽であるとか、経費の節減になるというメリットの方に心惹かれてしまって、体を動かしてどこかへ出向くのが億劫になって、「オンラインではないのか」と言われることも多い実態もあるので、研修自体の内容や効果とをしっかりと見据えてこういう理由だからここはオンラインが的確であるとか、あるいはこれは集合で心をつなげなければ、動かさなければいけないところを明確にしていくことは今後社会の課題でもあると思うので、そのあたりが利便性だけに流されすぎずに、効果を上げるためにこういった形の研修をすればいいのかを考えているとは思いますが、大切にしてもらいたいと思っている。

教育センター所長

教育センターとしても、まずは集まって研修をすることを第一に考えている。ただ講師の都合等によってオンラインまたは遠方でなかなかこちらのほうに来ることができない方もいるので、そういった方々にはオンラインで対応しているが、できる限り集合研修で対応していきたいと考えている。

岩岡教育長

研修に出てくる側も、一方的な情報伝達の研修であれば、これはオンラインでよかったのではと意見が出る時代になってきてしまっている気もするので、集合研修を基本にしながら講師の先生にできるだけワークなどを入れてもらえないかとか、情報交換をするようなセッションを入れた研修してもらえないか等お願いをしながらやっていけばいいかと思っている。

(報告事項エは了承された。)

オ 令和3年度(2021年度)鎌倉市教育センター相談室利用状況について

岩岡教育長

次に報告事項オ「令和3年度(2021年度)鎌倉市教育センター相談室利用状況について」報告を願いたい。

教育センター所長

報告事項オ「令和3年度(2021年度)鎌倉市教育センター相談室利用状況について」報告する。議案集17ページは教育センター相談室における利用状況である。相談件数は3,738件で前年度の約1.3倍となり、増加傾向にある。内容別相談件数も不登校等や家族養育等、進路、学校生活による相談等の内容が増加している。

下の表3を参照願いたい。いじめ相談ダイヤル、ウェブでのいじめ相談件数と3月に開設したこどもSOS相談フォームの利用件数をまとめたものである。毎日教育センター指導主事が確認をし、入力があった場合には学校に連絡をし、相談員につなげるなど、迅速に対応することができた。

議案集18ページは、教育支援教室ひだまりの利用状況をまとめたものである。3月末現在の登録者数は小学生8名、中学生17名の計25名であった。通室していた中学3年生4名は全員進路を決めて卒業をした。

議案集19ページを参照願いたい。鎌倉市では主に中学校に配置されているスクールカウンセラーの相談実績である。相談件数は2,252件であった。昨年度に比べ件数はやや減ったが、相談内容としては昨年同様に心身の不調や不登校に関する相談等が多くあった。

議案集20ページは月2回小学校へ派遣している教育相談員の相談実績である。相談件数は5,061件で前年度に比べて700件近く増えている。相談内容で多いのは、発達の問題、学校生活、不登校、家族養育関係の順になっている。今後もスクールカウンセラーとあわせて効果的な活用を行ってまいりたいと思っている。

議案集20ページの下は心理検査WISC-4の実施状況である。令和3年度(2021年度)は18件の検査を実施し、検査結果を保護者と学校にフィードバックを行った。今後も検査する体制を維持し、家庭、学校への支援を行ってまいりたいと思っている。

(質問・意見)

林委員

1年分の件数をまとめるとこれだけの数になるということは、子どもたちが色々なところで色々なものを抱えているのだとすごく実感している。この内容についてではないのだが、教育センターの方々も色々な立場で入ってケアをするのも大事なのであるが、コロナ禍であったり、ICT活用だったりでなかなか学校の先生方が自分の心と頭の中で気づく力が育っていない。そういったチャンスを奪われていた感じもしているので、ぜひ先生方に気づく力、その小さな気づきから学校の中で解決するというのも出てくると思うため、先生方の研修や心がけをこれから色々な立場で指導していただけるとありがたいと思う。また、養護学校の方でも保護者の方々に子どもの気づきも大事だということがどこかで伝わるとよいと長年の経験から感じる。

教育センター所長

学校現場では先生方が色々なことを考えながら日々指導していると思う。教育センターとしては児童生徒理解研修会というものを設置している。そこでは各学校から1名出席をしてもらっていて、その中で学校に戻って広めてもらうことがまず1つあるかと思う。また相談室からも随時情報を出しているので、そういったところで今後も周知をしていきたいと考えている。

岩岡教育長

1つ質問よろしいか。相談件数、特に相談室の相談件数が3,738件であるが、保護者からの相談と子ども自身の相談はどのくらいの割合で来ているのかをお伺いしたい。私の直感では9割5分ほどが保護者からではないかと認識している。

教育センター所長

今手元に資料がないため、後ほど調べて報告する。

岩岡教育長

気づきとして、ひだまりは小学生の通室日数がどんどん伸びているのが特徴的だと思っており、小学生の利用が増えると逆に中学生にとって居心地が悪い環境になってしまったり、自分の場所ではないと思ったりということがあのではないかと思う。小学生・中学生が混在している難しさもあるかと思うのだが、中学生のニーズや気持ちをよく見ていかななくてはいけないと思っている。

後はスクールカウンセラーの相談実績のところ、小学校はやはり児童よりも保護者の相談数が圧倒的に多く、中学校は生徒からの相談も増えてくるが、保護者・教職員からの相談の方が多き状況の中で、もし子どもがスクールカウンセラーに相談する上で、こういったところが課題としてあるのかなど、何か気づきの点があれば教えていただきたいと思う。私の直感としてはやはり非常に少ない日数しか来ない職員であるので、心を開いてその人にすぐに悩みを相談することが難しいかと思っている。スクールカウンセラーに行く前に養護教諭のほうに行ってしまうところもあるかと思うのだが、もし気づき等があれば教えていただきたい。

教育センター所長

スクールカウンセラーは県から中学校に配置されているが、大体週に1回の割合で勤務している。そのうちの月1日は中学校学区内の小学校へ行っている状況であり、日数が少ないことはご指摘のとおりである。中学校にはスクールカウンセラーがいる相談室があるので、生徒が安心して相談できる環境が整っていると思うので、生徒指導担当とも情報共有をしながらスクールカウンセラーについて周知していければと考えている。

長尾委員

スクールカウンセラーの件なのだが、私も娘がおり、学校に月に何回かカウンセラーが来るのだが、存在自体が子どもたちからの認識が薄いのである。月曜日の朝礼等でスクールカウンセラーのプロフィールのようなものをどんどん発信して垣根をなくす取組をぜひお願いしたいということを保護者から学校に提案した実績がある。そうすると子どもたちもカウンセラーの方の呼び方が変わったり、来る日を楽しみにしていたりするのである。少し難しい先生であるとか、声をかけるのが怖い先生への子どもたちの認識が変わってきたので、そういった先生の周りに子どもが集まるようになったという報告を受けたケースがある。そのため、スクールカウンセラーはどんな方々で、どのように子どもたちを受け入れてくれるのかを積極的に周知する取組をしてもらいたいと思う。

教育センター所長

本当にそのとおりだと思っている。教育センターとしても、学校にはスクールカウンセラーの活用について周知をしていきたいと考える。

下平委員

ヤングケアラーに関する取組を鎌倉市でも始めていると思うのだが、そういった相談を実際に受けているのかということと、受けている場合分類としては家庭環境にカウントされるのかを伺いたい。

また、スクールカウンセラーの相談実績を見ていて、小学校3年生のところで「その他」の部分が10件あるのだが、「その他」というのがどういった内容なのか教えてもらいたい。特徴的な相談があるのか伺いたいと思う。

ヤングケアラーの問題は、やはりなかなか生徒から言い出しにくいことでもあると思うし、本人はそれを受け入れてしまっているのでは、先ほど話にもあったとおり、他人の目が気づくことが自分に変化するためにも、相手に働きかけるにしても第一歩なので、やはり授業もオンライン化が進んでいる実態もあるので、しっかり観察する目、変化に気づく目がこれからますます重要になってくる。小学校の低学年の頃からそういった変化にちゃんとつなげていく、専門家につなげていくことは、これからもぜひ大切にしてもらいたいと考えている。

教育センター所長

相談内容については今手元に資料がないため後ほど報告したいと思う。ただ実態があることは聞いているので、教育センターとしてはアクションプランの方で教職員の方に気づきについて周知している。

今年度の夏の研修会、教育センター企画研修会でも研修を実施する予定のため、そういったところで周知をしていきたいと考えている。

岩岡教育長

補足として、ヤングケアラーの支援に関しては、条例の制定が市長の公約になっており、教育委員会だけではなく鎌倉市全体で取組を進めていこうという動きが進んでいる。やはり公立小中学校に通う子どもたちだけではなく、私学や附属に通っている子ども、未就学児、高校生と色々な子どもたちがいる中で、ヤングケアラーに対して公的にどのような支援ができるのか、相談ができるのかは教育委員会としてもしっかり協力をしながら取組を進めていきたいと思っている。

(報告事項オは了承された)

カ 行事予定

(令和4年(2022年)5月18日～令和4年(2022年)6月30日)

岩岡教育長

次に報告事項のカ「行事予定」について、記載の行事予定に対し質問・意見等はあるか。

(質問・意見)

岩岡教育長

鎌倉市推進協議会と共催で開催する大河ドラマの講演会、「北条義時とその時代」の応募の状況等について伺いたい。

教育文化財部次長兼生涯学習課担当課長

今質問があった講演会は6月11日に鎌倉生涯学習センターホールで「北条義時とその時代」というタイトルで開催する。内容としては、伊豆時代から頼朝を支えた御家人の功績をテーマにした講演会となる。講師には京都女子大学の野口実教授と、愛知学院大学の福島金治教授を呼ぶ形となっている。福島先生に関しては鎌倉幕府における安達盛長・景盛の役割について、また、野口先生に関しては北条時政の役割ということで、これらの御家人から見た北条義時の視点やその時代のことを講演していただく予定となっている。今回は140名の定員であるが、この定員を超える盛況ぶりで、かなりの大盛況となっている。今後の予定だが、このあと鎌倉歴史文化交流館、鎌倉国宝館、大河ドラマ推進協議会と連携した交流会を秋から年明けに2回ほど行う予定となっている。

岩岡教育長

大河ドラマのブームに乗って、アカデミックな歴史についても関心を持ってもらえるのは本当にありがたいことである。大河ドラマ館と連携し、大河ドラマ館に行けば鎌倉歴史文化交流館と鎌倉国宝館を

無料で観覧できる仕組みを整えているが、大変利用者が増えており、大河ドラマ館に行った多くの方が、鎌倉歴史文化交流館まで足を運んでくれているので、今回の大河ドラマ自体はフィクションであるが、そこからアカデミックな歴史についても想いを馳せるいい機会になっていると思うので感謝したいと思う。

私の方から鎌倉武について報告する。これは社会教育事業の一環としてやっているものであり、非常に素晴らしいものだと感じている。この社会教育事業は今年立ち上げたものであるが、地域の皆様と子どもたちが、鎌倉の春夏秋冬の様々な魅力や文化といったものを一緒に学んでいくクラブ活動を生涯学習としてやるものになっている。子どもたちも応募をかけており、続々と集まってきている。これから春の鎌倉歴史探訪が第1回として行われる。非常に鎌倉らしい社会教育事業だと思うので、また注目されればありがたいと思っている。鎌倉市教育委員会のnoteでも鎌倉武に関する記事を書いており、ぜひ拝見してもらえればと思う。

(行事予定報告はそれぞれ了承された)

2 議案第6号 鎌倉市文化財専門委員会の委嘱について

岩岡教育長

次に日程の2議案第6号に入る。「鎌倉市文化財専門委員会委員の委嘱について」を議題とする。議案の説明を願いたい。

文化財課長

日程2議案第6号「鎌倉市文化財専門委員会委員の委嘱について」提案理由を説明する。議案集は26ページから27ページを参照願いたい。鎌倉市文化財専門委員会の委員については、鎌倉市文化財保護条例第6条の規定により、定数10名、任期2年と定められ、学識経験を有するものうちから、教育委員会が委嘱することとなっている。現在の委員の任期は令和4年(2022年)5月31日をもって満了となる。この度、新しく委嘱を予定している委員の方々は、別紙委嘱予定者名簿のとおり、大野敏氏他9名で、全員が再任となる。任期は令和4年(2022年)6月1日から令和6年(2024年)5月31日までの2年間となる。

(質問・意見)

岩岡教育長

文化財専門委員会には私も何度か出席したが、鎌倉の文化、歴史に関してアカデミックな知見を持っている人に着任してもらわなくてはならないため、全員再任ということで提案をしている。

(議案第6号は原案のとおり可決された)

3 議案第7号 鎌倉市生涯学習センター指定管理者の指定について

岩岡教育長

次に日程3、議案第7号に入る。「鎌倉市生涯学習センター指定管理者の指定について」を議題とする。議案の説明を願いたい。

教育文化財部次長兼生涯学習課担当課長

日程3、議案第7号「鎌倉市生涯学習センター指定管理者の指定について」説明する。議案集はその2、5ページから6ページになる。

最初に指定管理者選定の経緯について説明する。6ページの資料を参照願いたい。令和4年(2022年)2月2日に開催された教育委員会2月定例会において、鎌倉市生涯学習センター指定管理者選定委員会委員について議決を受けた後、第1回鎌倉市生涯学習センター指定管理者選定委員会を2月24日に開催し、本市の生涯学習センターにふさわしい指定管理者について評議を受け、募集要項及び仕様書については、今まで実施してきたアンケート結果及び説明会における利用者等の意見、要望をできる限り反映するため、3月9日に開催した第2回選定委員会においても、引き続き協議を行い作成した。また第2回選定委員会では、選定基準の項目及び配点について協議をするとともに、最低基準を6割とすることを確認した。指定管理者募集に係る公募を3月28日から行い、4月5日に現地説明会を開催し、その後、事業者からの質問及びその回答を経て、4月25日から27日まで提案書の受付を行ったところ、2団体から応募があった。第3回選定委員会を5月7日に開催し、提案書類の確認を行うとともに、プレゼンテーションのテーマ等についての協議を行い、5月14日に第4回選定委員会を開催し、公開プレゼンテーション及び選定委員による質疑を行った。応募団体からの書類及び公開プレゼンテーションの結果を踏まえ、選定委員による審議及び採点が行われたところ、若年・現役世代に向けた取組が期待できること、また、全世代に渡る取組や地域ごとの特性を捉えた運営が期待できることといったことから、指定管理者選定委員会の総意として、相鉄企業株式会社と株式会社小学館集英社プロダクションによる共同事業体、鎌倉CITYパートナーズが鎌倉市の生涯学習センターの指定管理者候補者としてふさわしいとの結論となった。その結果を受け、鎌倉市長に「鎌倉市生涯学習センター指定管理者の指定について」市議会6月定例会への議案の提案について申し出をしようとするものである。なお、市議会での議決を受けた後、「指定管理者の指定について」教育委員会に諮り、審議を行う予定である。

(質問・意見)

岩岡教育長

選定委員会のプロセスお疲れ様であった。選定委員会には、社会教育の関係の方、文化団体の方、生涯学習の講座等を企画してもらった方や社会保険労務士や会計士の方にも入ってもらい、経理上財政体制がしっかりしているのか、人員管理等に瑕疵がないか、全世代に渡る生涯学習の講座を企画していく上で必要な企画がなされているのかといったことや、利用団体の皆様の意見を聞く取組が踏み込まれているのかといったことも含めて、採点基準からしっかりと議論をしてここまで提案を受け付けてきたと思

っている。今回、指定管理者の候補者として挙がっている鎌倉 CITY パートナースは相鉄企業株式会社と株式会社小学館集英社プロダクションの共同事業体であるが、地域の振興をしていきたい鉄道事業者と教育関係事業に非常に知見の深い事業者が組んで出してきたということで、利用者に寄り添った対応の面と全世代に向けた講座の開設といったところのバランスのよい提案であったと思っており、鎌倉生涯学習センターがよくなっていく明るい未来が見えたと感じている。

下平委員

鎌倉 CITY パートナースという名前がついており、今回の応募に際して相鉄企業株式会社と株式会社小学館集英社プロダクションが特別に立ちあげた団体かと思うのであるが、両者がタイアップして他に同じような事業をしている経緯はあるのかということと、それぞれの共同事業体とした理由を伺いたい。

教育文化財部次長兼生涯学習課担当課長

相鉄企業株式会社と株式会社小学館集英社プロダクションが組んだのは今回の鎌倉市が初めてである。組んだ経緯としては、相鉄企業株式会社が鎌倉市生涯学習センターホールの機構管理を34年間ずっと担ってきたので、鎌倉市生涯学習センターの施設管理の部分、特にホールの部分についての取扱いに長けているといった部分が1点ある。株式会社小学館集英社プロダクションについては、出版業界であり、鎌倉ペンクラブとも親しく付き合いがある。鎌倉には作家の先生方がいる等といった部分もあり、互いのメリットを十分いかせるということが組んだ理由だと共同提案書の方で確認している。

岩岡教育長

両社ともそれぞれ単独で指定管理を受けるというよりは、共同事業体を組んで請け負っているケースが多いと認識しており、特に株式会社小学館集英社プロダクションはそうそういったケースが多いと感じている。共同事業体として施設の管理と教育事業を一体的にやっていくことに関しては、今回この2社が組んだのは初めてかもしれないが、事業体を組んで指定管理をしていくことについては十分なノウハウがあると思っている。

下平委員

私自身も時々鎌倉生涯学習センターを利用しているので、利用者の立場で見ると、これから電子化が進むと思うが、簡単に申込みができたり、すぐに混雑状況がわかったりといったところが何より大事だと思うのである。そのあたりはプレゼンテーションを聞いてどんな改善が図れそうか伺いたい。

教育文化財部次長兼生涯学習課担当課長

今回のプレゼンテーションのテーマの中でも「社会教育事業の量的拡充と質的向上」ということで鎌倉市生涯学習センターが抱えている課題についてどのように展開していくのかについてプレゼンテーションをしてもらった。また、提案書類の中でも、申込みについては、高齢者の方であっても寄り添って、誰でも簡便に申込みができるような工夫を展開していく旨の提案を受けた。利用しやすさ、敷居の低さといった点では、ロビーの活用を前面に出した提案を受けており、そういった点が今まで利用していなかった方々にも寄ってもらえるようになるかと考えている。また、鎌倉駅東口側に授乳施設があるのは、

公共施設の中では鎌倉生涯学習センターだけなのである。そういった点も踏まえて、離乳食や自販機を設置するなど、利用者に即した運営をしていきたいという提案を受けている。

長尾委員

質問であるが、今回参加した2社のプレゼンテーションについて大きな差異があれば伺いたい。また、たくさん使ってもらえる施設を目指していきたいと思うので、何か革新的な提案などがあればぜひ教えてもらいたい。

教育文化財部次長兼生涯学習課担当課長

鎌倉 CITY パートナースでないもう1社の企業に関しては、今取り組んでいる指定管理の実績をもとにプレゼンテーションしていたが、親子の関係でのプレゼンテーションがメインになっており、選定委員からは乳幼児あるいは小学校の親子への展開には長けているとは思いますが、全世代へといった広がりを感じることはできないといった意見を受けた。

良いと思った点であるが、現在鎌倉生涯学習センターの中では、先ほどのGIGA スクールの部分でも被るところもあるが、講師の先生方が遠方において、なおかつオンラインの講座が行えない状況でどういったことができるかというところで、鎌倉 CITY パートナースは、鎌倉で集客し、講師の先生に来てもらい、遠方の腰越や玉縄の方はサテライトで視聴できるといった提案や、あるいはこちらのオンラインでフェスティバルを展開するといった具体的な提案が非常に多かったと感じている。特に今、中学生・高校生の自習室不足も課題であると捉えているが、鎌倉 CITY パートナースは実績として、生活支援施設で空いている部屋については開放をしていく、またその周知についてはLINE 等でリアルに周知ができる工夫をしていきたいと提案を受けた。そうすると、勉強できた若い世代が鎌倉生涯学習センターを知ってもらえることができると考えていた。また、若年世代に向けた講座についても様々な提案を受けたので、そのあたりが選定委員の皆様も楽しみであるといった意見を受けたところである。

岩岡教育長

オンラインで講座をやるのももちろんなのであるが、市民の皆様が関心を持っていることは何か、その生涯学習を後押しするということがすごく大事だと思っている。何を持って革新的かというのは難しいのであるが、私が提案を見て非常によいと思ったのが、市民の皆様が取り組んでいる盆栽やオーガニック、写真や森林環境の維持について講座をしっかりと行っていくとともに、地域の講座だけではなく、地域の皆様自身に取り組めるサークル活動、事業展開をしていき、そこで学んだ市民自身が講師になって市民の活動を支えていく循環作り等細かな提案がされていた。単純に知見を持ってよい講座をするだけではなく、市民自身が学んでいく仕掛け作りにもアイデアを持った方々だと感じている。あとは先ほど下平委員が言ったように、予約や混雑状況のようなものをホームページを立ち上げてリアルタイムで確認できたり、SNS 等でも見られたりといったところについても取り組んでいきたいとのことなので、利便性の向上にもつながっていくと思っている。

朝比奈委員

手を挙げた企業がもっとたくさんあるかと思っていたが、2社だけであったのが少し驚いた。鎌倉は

対外的にも魅力を感じる市だと思っているので、あまり大勢が手を挙げなかったのではないかと感じて若干残念ではあった。ただ、この度候補に挙がっている鎌倉 CITY パートナーズの株式会社小学館集英社プロダクションは以前に鎌倉文学館の指定管理の候補に手を挙げたのではないかと思う。その時は採用に至らなかった訳であるが、かまくら春秋社とも親しく話しており、そういう意味でも、あの時代の鎌倉ペンクラブの文士の人たちが面白く盛り上げていったあれがまた再現できるチャンスがくるのかという期待もある。そもそもこのプレゼン資料を拝見すると、いいことしか書いていないのである。これだけのことを行政が主体で行うのはやはり限度があり、センスや使いやすさも大事であるため、ある程度リニューアルもして、若い人たちが興味を示すのは本当に大事なことだと思う。夜間利用のことも書いてあるため、期待したいところである。とにかく今までの古風なイメージを払拭できるチャンスだと思うので、よろしく願います。こういったものを指定管理に任せることに対して否定的な意見もあるかと思うので、否定的な意見の方も納得できる運営を期待したいと思っている。

教育文化財部次長兼生涯学習課担当課長

実際に提案書を出してもらったのは2団体、企業としては3企業だったのだが、現地説明会にはハード面の会社が7社、株式会社小学館集英社プロダクションのようなソフトの部分を担当する4社が参加した。現地説明会でハード面しか見ない企業もかなり多かったので、企業体を組まれる想定で見ていたのかと思う。最終的に2社が組み、後は1団体という形で落ち着いたのではないかと感じた。決して関心はなかった訳ではなく、現地説明会は分刻みで見て回ってもらった感覚であった。朝比奈委員の指摘のとおり、これを全部市の直営だと難しい部分もあるので、我々ももちろん社会教育推進事業鎌倉武等々があるので、一緒に連携して社会教育事業を盛り上げていきたいと思っている。

林委員

この時代は互いにできないことを補完し合って前に進む時代になっているかと思うので、プレゼンを見て、全世代、特に若い世代の方への対応がすごく丁寧に提案されていると感じたが、やはり変化に対して戸惑う世代、今まで利用していて継続していく時に不安を覚える方もいるかと思う。使い勝手の部分も含めて、そういった方々へのフォローやサポートなどの意見があったら聞かせてもらいたい。

教育文化財部次長兼生涯学習課担当課長

実際質疑の中で、選定委員からもそういった質問があった。相鉄企業株式会社については元々鉄道会社として地域住民に寄り添った運営を第一としている。そのため今の利用者からは当然厳しい意見を受けることもあるかと思うが、そこは大切にしながら課題解決していきたいといった話も聞いている。指定管理者の指定の議決をいただいた後には、利用者のところを回って、丁寧にヒアリングをして運営をしていきたいと伺っているので、生涯学習課としても一緒に進めていきたいと思っている。

下平委員

施設自体が古かったり、暗かったり、備品が色々と古く時代に合っていなかったりと使い勝手の悪さがあったが、このプレゼンによると空間演出も考えると、備品や空間に関してリニューアルするとか、後は子育て支援につながる専門の自販機を設置するなど、かなり具体的に色々な設備について提案され

ている。しかし、市の予算の中では全然できなかったことが事業者とタイアップすることで実現は可能なのか。そのあたりを是非伺いたい。

教育文化財部次長兼生涯学習課担当課長

私どもとしてもまずは10月に移行する前までにはもう少し備品を各施設に拡充し、施設も少し修繕しようと考えているのだが、Wi-Fiの設置などについては色々な課題があると専門の部署からは聞いている。そういったものが今度指定管理者に移ることで、全部の市のラインが切れるため、空になると逆に早く入れられるようになるのではないかと思う。既存のものと並行して入れるとなると難しかったのが、鎌倉生涯学習センター部分は市のシステムから外れてくるので、そうすると却って簡便に設置できると考えている。相鉄企業株式会社は34年間施設を見て日々不具合等を感じていたため、そういった意味を含めての提案だったのではないかと感じている。

下平委員

お金は契約した予算の中で速やかに対応してくれるのか。

教育文化財部次長兼生涯学習課担当課長

まだ具体的にどういったお金でというのは決まっていないが、指定管理料にも我々がもともと持っている修繕費などの備品調達資金はもちろん計上している。今後色々決まってから、指定管理者が対応するか、どういう形で考えているのかについては丁寧に確認していきたいと思う。

岩岡教育長

当然この計画を出してもらう際には収支予算書を出してもらい、その妥当性も確認した上で選定を行っている訳だが、具体的にどのように事業計画をするかと事業計画を承認するというプロセスはまた別にあるので、そのプロセスの中でしっかり見ていきたいと思う。

下平委員

前々から若者や現役世代にもっと活躍してもらえればよいのではと思っていたので、そういう意味では株式会社小学館集英社プロダクションが入ってくることでイベント性やアピール力にも長けていると思う。例えば駅のカフェのようなところで学生たちがずっと勉強している光景をよく目にするので、そういう学生たちがゆっくり落ち着いて学べるスペースとしてこういった施設があるので、便利な場所にもあることであるし、空いているのあれば活用できるようになればよいと思う。そういったことも今後若い世代の活用につなげていけたらよいと感じている。

岩岡教育長

フリースペースの設置などは相鉄企業株式会社などはかなり押し出してくれていて、もちろん条例の範囲でできる内容としてそこは要相談ではあるが、若い人たちが気楽に立ち寄れる環境から扱っていきこうということにつながっていくので、そこもよく相談しながらやっていきたいと思う。

(採決の結果、議案第7号は原案のとおり可決された)

岩岡教育長

それでは日程の4については非公開となるので、傍聴者及び、関係職員以外の職員の退席をお願いする。

非公開

4 協議事項 令和4年度鎌倉市一般会計補正予算（教育委員会所管部分）について

岩岡教育長

以上で、本日の日程は全て終了した。これをもって5月定例会を閉会する。